

KP (m)		7.7	7.8	7.9	8	8.1	8.2	8.3	8.4	8.5	8.6	8.7	8.8	8.9	9	9.1	9.2	9.3	9.4	9.5	9.6	9.7	9.8	9.9	10	10.1	10.2	10.3	10.4	10.5	10.6	10.7	10.8	10.9	11	11.1	11.2	11.3	11.4	
ロードキル経年発生件数		9	12	4	11	11	4	3	6	23	14	5	7	1	2	3	8	5	4	12	11	4	12	10	6	8	12	12	13	11	9	9	6	8	6	7	5	4	1	
ロードキル年間発生確率		33%	53%	20%	53%	53%	20%	20%	40%	73%	67%	33%	40%	7%	13%	20%	33%	33%	20%	40%	60%	20%	60%	40%	27%	40%	47%	53%	53%	53%	47%	40%	40%	40%	40%	27%	27%	20%	7%	
ロードキル発生の高い区間		←→		←→			→→											←→			→→		→→					←→												
移動経路	BOXカルバート等																																							
	アンダー・オーバー																																							
下り車線	道路構造	IC	IC	IC	IC	IC	切	切	切	切	盛	盛	盛	PA	PA	PA	PA	盛	盛	盛	盛	盛	盛	盛	盛	切	切	盛	高架	高架	盛	盛	盛	盛	盛	盛	盛	盛	盛	
	H30柵の種類																																							
	H31柵の種類																																							
	R6柵の種類																																							
	R6動物痕跡																																							
	R6けもの道		1	1							1		1	2	1	3			2	2	2	1	11	4		11	1	1			1	2			2		3		2	10
上り車線	側溝侵入			1						1		1		1	1					2	3	3	1				2	1						1	1	2	1	1		
	道路構造	IC	IC	IC	IC	IC	切	切	切	切	盛	盛	盛	PA	PA	PA	PA	盛	盛	盛	盛	盛	盛	盛	切	切	切	盛	高架	高架	切	盛	盛	切	切	盛	盛	盛	盛	
	H30柵の種類																																							
	H31柵の種類																																							
	R6柵の種類																																							
	R6動物痕跡																																							
R6けもの道						1		1	2	4				1		1				1	2	1		2			2			1	3	2	2		2		2	2		
側溝侵入		1	2	1		1	2			2							1			2	3	2	2		1		2	1		2		2		3	2	4	2			

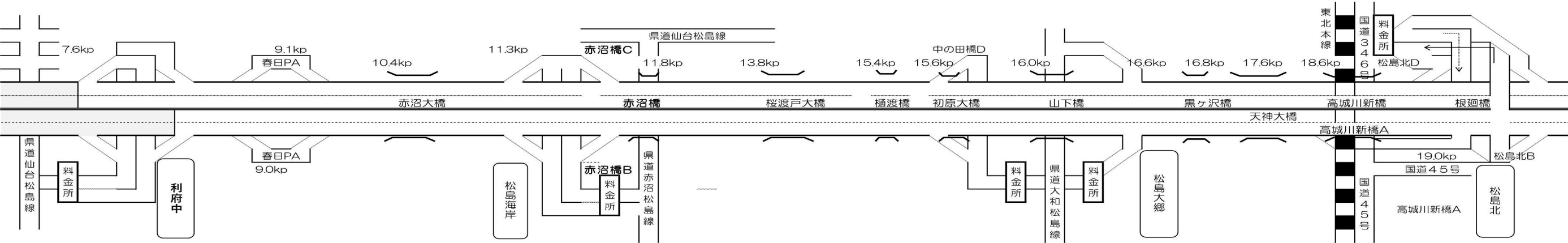
KP (m)		11.5	11.6	11.7	11.8	11.9	12	12.1	12.2	12.3	12.4	12.5	12.6	12.7	12.8	12.9	13	13.1	13.2	13.3	13.4	13.5	13.6	13.7	13.8	13.9	14	14.1	14.2	14.3	14.4	14.5	14.6	14.7	14.8	14.9	15	15.1	15.2
ロードキル経年発生件数		5	9	6	6	3	9	4	9	9	4	3	8	0	4	12	10	9	5	5	16	9	10	10	2	3	3	13	12	3	8	13	14	15	5	8	6	16	12
ロードキル年間発生確率		27%	47%	27%	33%	13%	47%	27%	53%	47%	20%	13%	40%	0%	20%	60%	47%	53%	27%	27%	60%	40%	60%	47%	13%	20%	20%	47%	53%	20%	40%	47%	53%	60%	33%	47%	33%	53%	60%
ロードキル発生の高い区間																↔					↔		↔					↔	↔			↔	↔				↔	↔	
移動経路	BOXカルバート等																																						
	アンダー・オーバー																																						
下り車線	道路構造	IC	IC	IC	IC	IC	IC	盛	盛	盛	盛	盛	盛	盛	切	切	切	盛	切	切	切	盛	盛	盛	高架	高架	盛	切	切	切	切	盛	切	切	切	切	切	切	切
	H30柵の種類																																						
	H31柵の種類																																						
	R6柵の種類																																						
	R6動物痕跡																																						
	R6けもの道		7	11	4																																		
	側溝侵入	1		1	4	2		2	1	1					1	1		2		1								2											
上り車線	道路構造	IC	IC	IC	IC	IC	IC	切	切	切	切	切	盛	切	切	切	切	盛	切	切	切	盛	盛	盛	高架	高架	盛	切	切	切	切	盛	盛	切	切	盛	盛	盛	盛
	H30柵の種類																																						
	H31柵の種類																																						
	R6柵の種類																																						
	R6動物痕跡					1	5																																
	R6けもの道	34	12	6		2	33		1			2		1					1	2	3		1											4		1			
	側溝侵入	1	1	1	4			1				1	1		1		1			1			1				3						1			1			

注) ロードキル経年件数：平成 21 年度～令和 5 年度の発生件数合計、ロードキル年間発生確率：平成 21 年度～令和 5 年度におけるロードキル発生年/調査年数

ロードキル発生高い区間：ロードキル経年件数とロードキル年間発生確率の両方が高い区間

柵の種類：■有刺鉄線、■ネットフェンス、■防獣柵、■民地フェンス

図 6-57(1) ロードキル発生状況と道路構造と侵入防止柵の種類に係る整理（平成 21 年度～令和 5 年度：7.7～19.1KP）



KP (m)		15.3	15.4	15.5	15.6	15.7	15.8	15.9	16	16.1	16.2	16.3	16.4	16.5	16.6	16.7	16.8	16.9	17	17.1	17.2	17.3	17.4	17.5	17.6	17.7	17.8	17.9	18	18.1	18.2	18.3	18.4	18.5	18.6	18.7	18.8	18.9	19	19.1
ロードキル経年発生件数		10	4	3	4	7	20	13	4	10	2	4	8	8	4	9	13	8	9	17	13	4	10	5		2	4	7	7	9	5	7	10	7	5	3	6	5	6	22
ロードキル年間発生確率		47%	20%	20%	27%	40%	80%	53%	27%	40%	13%	27%	47%	40%	20%	47%	73%	33%	33%	60%	53%	27%	47%	33%	0%	13%	20%	40%	33%	47%	27%	40%	40%	40%	27%	20%	27%	33%	33%	60%
ロードキル発生の高い区間							↔	↔		↔							↔			↔	↔																			↔
移動経路	BOXカルバート等	■		■																									■			■								
	アンダー・オーバー								■							■									■	■										■	■			
下り車線	道路構造	盛	橋	盛	IC	IC	IC	IC	高架	IC	IC	IC	IC	IC	切	橋	盛	盛	盛	切	切	盛	切	高架	高架	高架	盛	盛	切	盛	切	切	切	切	高架	高架	IC	IC	IC	IC
	H30柵の種類	■	■	■	■	■	■	■		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	H31柵の種類	■	■	■	■	■	■	■		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	R6柵の種類	■	■	■	■	■	■	■		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	R6動物痕跡																	1	1	2																				
	R6けもの道	1							1	6	8		2	1		1	1	2	3	1	3	3								2	1	5	1	4	1					
	側溝侵入	2	1														2	2	2									2		1		1	5	1	4	1		1	1	
上り車線	道路構造	盛	橋	盛	IC	IC	IC	IC	高架	IC	IC	IC	IC	IC	切	橋	盛	盛	盛	切	切	盛	切	高架	高架	高架	盛	切	盛	盛	切	切	盛	盛	高架	高架	IC	IC	IC	IC
	H30柵の種類	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	H31柵の種類	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	R6柵の種類	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	R6動物痕跡																			1									1		2	2								
	R6けもの道	2			3	1	1							1		4		1		2	3	1	1			2	1	2	3	16	15	10	2	3			3	1		
側溝侵入	1				1		1										1	1	2			2							2			2				1		2	1	

注) ロードキル経年件数：平成 21 年度～令和 5 年度の発生件数合計、ロードキル年間発生確率：ロードキル発生年/調査年数、ロードキル発生高い区間：ロードキル経年件数とロードキル年間発生確率の両方が高い区間
柵の種類：■有刺鉄線、■ネットフェンス、■防獣柵、■民地フェンス

図 6-57(2) ロードキル発生状況と道路構造と侵入防止柵の種類に係る整理（平成 21 年度～平成 5 年度：7.7～19.1KP）

侵入防止柵付近で確認した痕跡状況を表 6-104 に示す。

侵入防止柵の点検時に周辺で確認された動物の痕跡は、ツキノワグマ、イノシシ、タヌキ、ノウサギなど 11 種が確認された。

確認頻度が高い種は、タヌキが最も多く、次にモグラ類、ノウサギの順であり、タヌキやノウサギなどのロードキルの多い種が確認された。

表 6-104 侵入防止柵付近で確認した痕跡の経年状況

No.	分類	科名	種名	H23	H24	H25	H26	H30	R6
1	大型	クマ科	ツキノワグマ						○
2		ウシ科	カモシカ						○
3		シカ科	シカ						○
4		イノシシ科	イノシシ					○	○
5	中型	イヌ科	タヌキ	○	○	○	○	○	
6		ウサギ科	ノウサギ	○			○	○	
7		イタチ科	イタチ		○		○		
8		ジャコウネコ科	ハクビシン					○	○
9	小型	モグラ科	モグラ類		○		○	○	○
10		リス科	ニホンリス				○	○	
11		ネズミ科	アカネズミ					○	
－			ネズミ類				○	○	
－			齧歯類						○
合計種数				2	3	1	6	7	7



図 6-58 確認したフィールドサイン（令和 6 年度）

イ. ボックスカルバートの利用状況

ボックスカルバート（以下、「BC」とする。）9箇所において、計18台（各BCに2台：上り線側入口1台、下り線側入口1台）自動撮影カメラを設置し、動物（哺乳類）のBC利用状況を把握した。

令和6年度調査における種別の撮影回数及び撮影割合^{注)}を表6-105に示す。

調査の結果、3目9科10種の哺乳類を確認した。確認種のうち、重要種はカモシカ（特別天然記念物）の1種であった。また、特定外来生物のアライグマを確認した。

種別撮影回数は、ハクビシン（370回：37.0%）が最も多く、次いで、タヌキ（344回、34.4%）、キツネ（132回、13.2%）の順に多かった。BC別撮影回数は、BC番号10（485回）が最も多く、次いでBC番号17（227回）が多かった。

平成29年度の結果（表6-106）と令和6年度の結果を比較すると（図6-59）、確認種数は4種から10種に増加した。今年度調査で新たに確認したのは、ツキノワグマ、アライグマ、アナグマ、イノシシ、ニホンジカ、カモシカであった。また、撮影割合の大きい上位3種は、タヌキ、キツネ、ハクビシンと変化がなかった。

注) 撮影割合＝撮影回数÷哺乳類の撮影回数合計

表 6-105 BC 別撮影回数及び種別撮影割合（令和6年度）

No	目名	科名	種名	学名	BC別撮影回数（数値はBC番号）													撮影割合 (%)	重要種の選定基準				備考
					1	2	6	7	8	10	13	14	16	17	18	計	①		②	③	④		
1	ウサギ目	ウサギ科	ノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>	2	0	0	0	0	0	-	-	0	2	0	4	0.4						
2	ネコ目（食肉目）	クマ科	ツキノワグマ	<i>Ursus thibetanus</i>	1	6	0	0	0	2	-	-	0	0	0	9	0.9						
3		アライグマ科	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	0	0	0	0	0	0	-	-	0	7	2	9	0.9					特定外来生物	
4		イヌ科	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	0	1	0	13	0	104	-	-	51	147	28	344	34.4						
5			キツネ	<i>Vulpes vulpes</i>	0	0	0	2	0	31	-	-	29	66	4	132	13.2						
6			イタチ科	アナグマ	<i>Meles anakuma</i>	0	0	0	23	0	3	-	0	0	0	26	2.6						
7			ジャコウネコ科	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>	0	2	0	15	1	328	-	-	14	5	5	370	37.0					
8		ウシ目（偶蹄目）	イノシシ科	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	0	1	0	13	0	7	-	-	1	0	0	22	2.2					
9	シカ科		ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>	0	0	0	2	6	9	-	-	0	0	0	17	1.7						
10	ウシ科		カモシカ	<i>Capricornis crispus</i>	32	34	0	0	0	1	-	-	0	0	0	67	6.7	特天					
	3目	9科	10種	撮影回数計	35	44	0	68	7	485	-	-	95	227	39	1,000		-	-	-	-		
				撮影種数	4種	5種	0種	6種	2種	8種	-	-	4種	5種	4種	10種		1種	0種	0種	0種		

注1) 目名、科名、学名及び種の配列は「令和6年度河川水辺の国勢調査 生物リスト」に準拠した。

注2) 撮影データは種の同定が可能なものを集計対象とした。ノネコなどの飼養の可能性のある動物は集計対象から除外した。なお、同一個体を除外する処理は行っていない。

注3) 重要種の選定基準は以下に示す通り。

- ① 文化財保護法 特天：国指定特別天然記念物、国天：国指定天然記念物
- ② 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 特定：特定国内希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種
- ③ 環境省レッドリスト（2020） EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足
- ④ 宮城県レッドリスト（2024） EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：地域個体群、要注目：要注目種

注4) 「-」は、調査未実施地点を示す。

表 6-106 BC 別撮影回数及び種別撮影割合（平成 29 年度）

No	目名	科名	種名	BC別撮影回数（数値はBC番号）												撮影割合 (%)	重要種の選定基準				備考
				1	2	6	7	8	10	13	14	16	17	18	計		①	②	③	④	
1	ウサギ目	ウサギ科	ノウサギ	9	0	0	0	0	-	0	2	0	-	0	11	5.6					
2	ネコ目（食肉目）	イヌ科	タヌキ	42	20	12	10	0	-	1	1	1	-	0	87	44.2					
3			キツネ	0	4	2	8	8	-	0	2	0	-	0	24	12.2					
4			ジャコウネコ科	ハクビシン	12	5	32	6	3	-	0	17	0	-	0	75	38.1				
	3目	3科	4種	63	29	46	24	11	-	1	22	1	-	0	197		-	-	-	-	
				3種	3種	3種	3種	2種	-	1種	4種	1種	-	0種	4種		0種	0種	0種	0種	

注1) 目名、科名、学名及び種の配列は「令和 6 年度河川水辺の国勢調査 生物リスト」に準拠した。

注2) 撮影データは種の同定が可能なものを集計対象とした。なお、ノネコなどの飼養の可能性のある動物は集計対象から除外した。

注3) 重要種の選定基準は以下に示す通り。

- ① 文化財保護法 特天：国指定特別天然記念物、国天：国指定天然記念物
- ② 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 特定：特定国内希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種
- ③ 環境省レッドリスト（2020） EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足
- ④ 宮城県レッドリスト（2024） EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：地域個体群、要注目：要注目種

注4) 「-」は、調査未実施地点を示す。

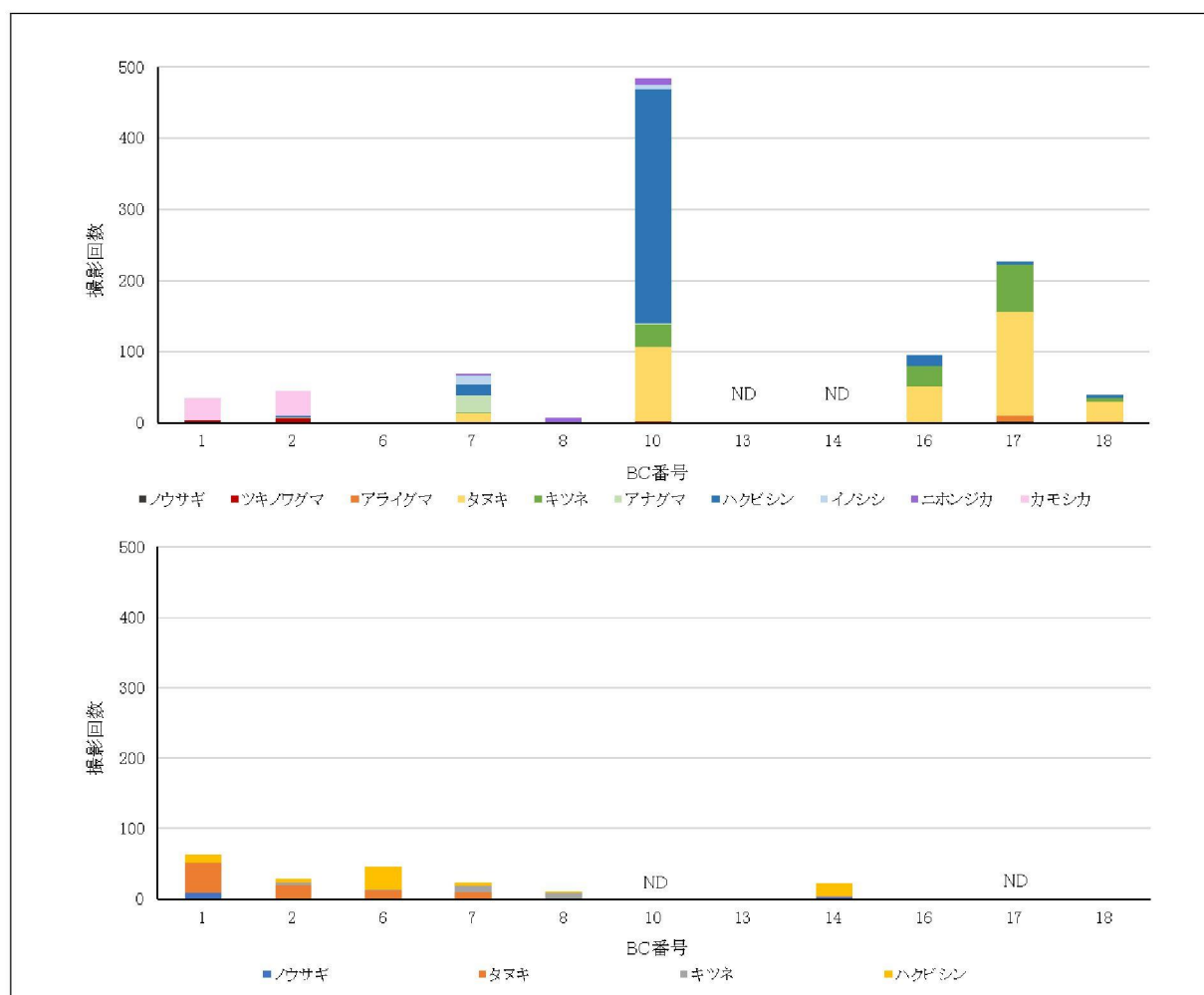


図 6-59 BC 別撮影回数（上図：令和 6 年度、下図：平成 29 年度）

注1) 撮影データは種の同定が可能なものを集計対象とした。なお、ノネコなどの仕様の可能性のある動物は集計対象から除外した。

注2) 「ND」は、調査未実施地点を示す。

哺乳類の BC 利用回数及び利用可能性回数を表 6-107 に示す。なお、利用回数及び利用可能性回数については、撮影回数を以下の判断基準で区別した。

【BC の利用、利用可能性、及びこれら以外の判断基準】

■ 利用

上り線側入口と下り線側入口で同種の個体が数分以内に撮影された場合、その個体が BC を通過し、移動のために利用したと判断した。ただし、その場合であっても、片側入口において哺乳類が BC 内へ侵入後、すぐに同じ入口から外へ出て、その後も再侵入がないなど撮影状況から BC を利用していない可能性が高いと考えられる場合は、このカテゴリに含めなかった。

■ 利用可能性

片側入口において BC 内で哺乳類が撮影され、反対側の入り口で数分以内に同種の個体が撮影されなかった場合、その BC を利用した可能性があるものの、利用（通過）したとは断定できないため、「利用」のカテゴリと区別した。ただし、その場合であっても、哺乳類が BC 内へ侵入後、すぐに同じ入口から BC 外へ出て、その後も BC 内への再侵入がないなど、撮影状況から BC を利用していない可能性が高いと考えられる場合は、このカテゴリに含めなかった。

■ これら以外

利用、または、利用可能性のどちらにも該当しない場合、これら以外に分類した。

R6 年度調査において、哺乳類が利用、または、利用した可能性がある BC は、BC 番号 1、2、7、10、16、17、18 であった。BC 別の利用回数・利用可能性回数は、BC 番号 10（232 回：利用 148 回、利用可能性 84 回）が最も多く、次いで BC 番号 17（79 回：利用 11 回、利用可能性 68 回）が多かった。

BC の利用を確認できた種はツキノワグマ、アライグマ、タヌキ、キツネ、アナグマ、ハクビシン、イノシシ、カモシカの計 8 種であった。利用した可能性がある種はニホンジカを除く 9 種であった。種別の利用回数・利用可能性回数は、ハクビシン（158 回：利用 112 回、利用可能性 46 回）、タヌキ（109 回：利用 32 回、利用可能性 77 回）、キツネ（79 回：利用 18 回、利用可能性 61 回）の順に多かった。

哺乳類の利用が確認できた BC のうち、BC 番号 1、2、7、10 はボックスカルバート周辺に樹林があるほか、人の立ち入りがほとんどない場所であった。BC 番号 7 及び 10 周辺では獣道や足跡が確認できたため、周辺に生息する哺乳類が頻繁に利用していると考えられる。BC 番号 17 は周辺に畑地や県道 8 号あるものの夜間は車両や人の利用が少ないことから、アライグマ、タヌキ、キツネの利用を確認した。BC 番号 18 は付近を県道 8 号が通っており、夜間も車両及び人の利用が多いことから動物の利用は確認できなかったが、タヌキ及びキツネの利用可能性があった。

哺乳類の利用または利用可能性が確認できなかった地点は BC 番号 6、8 であった。両地点とも周辺に樹林があるほか、人の立ち入りが少ない場所であったが、撮影回数そのものが少なかったことから、調査期間中に当該 BC 周辺に出没した哺乳類が少なく、利用も確認できなかったと考えられる。

平成 29 年度調査結果（表 6-108）と令和 6 年度調査結果を比較すると、利用を確認した種は 3 種から 8 種に増加した。今年度調査で新たに利用を確認したのは、ツキノワグマ、アライグマ、アナグマ、イノシシ、カモシカであった。また、BC の利用回数・利用可能性回数の多い上位 3 種は、タヌキ、キツネ、ハクビシンと変化がなかった。

表 6-107 BC 別利用回数及び利用可能性回数（令和 6 年度）

No	種名	区分	BC別利用回数及び利用可能性回数											計	総計
			1	2	6	7	8	10	13	14	16	17	18		
1	ノウサギ	利用							-	-				0	2
		利用可能性	2						-	-				2	
2	ツキノワグマ	利用		2				1	-	-				3	3
		利用可能性							-	-				0	
3	アライグマ	利用							-	-		1		1	4
		利用可能性							-	-		3		3	
4	タヌキ	利用						24	-	-	1	7		32	109
		利用可能性		1		5		39	-	-	8	23	1	77	
5	キツネ	利用						12	-	-	3	3		18	79
		利用可能性				2		4	-	-	11	42	2	61	
6	アナグマ	利用				2			-	-				2	9
		利用可能性				4		3	-	-				7	
7	ハクビシン	利用				3		108	-	-	1			112	158
		利用可能性				5		36	-	-	5			46	
8	イノシシ	利用				3		3	-	-				6	8
		利用可能性		1				1	-	-				2	
9	ニホンジカ	利用							-	-				0	0
		利用可能性							-	-				0	
10	カモシカ	利用	13	9					-	-				22	24
		利用可能性		1				1	-	-				2	
	回数	利用回数 計	13	11	0	8	0	148	-	-	5	11	0	196	
		利用可能性 計	2	3	0	16	0	84	-	-	24	68	3	200	
		合計	15	14	0	24	0	232	-	-	29	79	3	396	
	種数	利用 計	1種	2種	0種	3種	0種	5種	-	-	3種	3種	0種	8種	
		利用可能性 計	1種	3種	0種	4種	0種	6種	-	-	3種	3種	2種	9種	
		合計	2種	4種	0種	5種	0種	7種	-	-	3種	3種	2種	9種	

注1) 撮影データは種の同定が可能なものを集計対象とした。なお、ノネコなどの飼養の可能性のある動物は集計対象から除外した。

注2) 撮影回数の 3 区分（利用、利用可能性、これら以外）のうち、利用及び利用可能性の回数を示した。

注3) 「-」は、調査未実施を示す。

表 6-108 BC 別利用回数及び利用可能性回数（平成 29 年度）

No	種名	区分	BC別利用回数及び利用可能性回数											計	総計
			1	2	6	7	8	10	13	14	16	17	18		
1	ノウサギ	利用						-				-		0	2
		利用可能性	2					-				-		2	
2	タヌキ	利用	2		3			-				-		5	20
		利用可能性	5	3	6	1		-				-		15	
3	キツネ	利用		1			1	-				-		2	4
		利用可能性				2		-				-		2	
4	ハクビシン	利用	1		2			-				-		3	19
		利用可能性	5		6	1	1	-		3		-		16	
	回数	利用回数 計	3	1	5	0	1	-	0	0	0	-	0	10	
		利用可能性 計	12	3	12	4	1	-	0	3	0	-	0	35	
		合計	15	4	17	4	2	-	0	3	0	-	0	45	
	種数	利用 計	2種	1種	2種	0種	1種	-	0種	0種	0種	-	0種	3種	
		利用可能性 計	3種	1種	2種	3種	1種	-	0種	1種	0種	-	0種	4種	
		合計	3種	2種	2種	3種	2種	-	0種	1種	0種	-	0種	4種	

注1) 撮影データは種の同定が可能なものを集計対象とした。なお、ノネコなどの飼養の可能性がある動物は集計対象から除外した。

注2) 撮影回数の3区分（利用、利用可能性、これら以外）のうち、利用及び利用可能性の回数を示した。

注3) 「-」は、調査未実施を示す。



図 6-60(1) 撮影された哺乳類の写真 (1/2)

	
キツネ (BC10 下り線側入口)	アナグマ (BC07 上り線側入口)
	
ハクビシン (BC10 下り線側入口)	イノシシ (BC10 上り線側入口)
	希少種保護の目的から、生息位置等を特定し得る情報は非公開とさせていただきます。
ニホンジカ (BC10 上り線側入口)	カモシカ (BC02 上り線側入口)

図 6-60(2) 撮影された哺乳類の写真

4) 環境保全措置の効果の検証結果

侵入防止柵の交換前後におけるロードキル発生件数は表 6-109 に示すとおりである。

侵入防止柵を交換した区間は、交換後にロードキルが発生していない区間が 19 箇所計 1.9km で確認されており、ロードキル発生件数も全体的に減少している。

また、ボックスカルバートの利用状況は、令和 6 年度調査では確認種数が 10 種、利用回数及び利用可能性回数が合計 396 回であり、いずれも平成 29 年度より増加している状況であった。

また、種別にみると、ツキノワグマ、カモシカ、イノシシなどの大型獣、タヌキ、キツネ、アナグマなどの中型獣など、様々な体サイズの種が利用しており、ボックスカルバートが移動経路として高い機能を発揮していることが確認できた。

以上のことから、道路への侵入防止対策が進んでおり 4 車線供用後も継続して周辺の動物の移動経路は確保できていることが考えられ、環境保全措置を実施した効果があったと考えられる。

5) 環境保全措置の見直しの内容

さらなるロードキル低減のため、ネットフェンスへの張替えを実施した。

なお、ボックスカルバートへの誘導植栽の設置は安全性の問題から実施しなかった。

表 6-109 侵入防止柵の交換前後のロードキル発生件数の整理

年度	KP	7.7	7.8	7.9	8.0	8.1	8.2	8.3	8.4	8.5	8.6	8.7	8.8	8.9	9.0	9.1	9.2	9.3	9.4	9.5	9.6	9.7	9.8	9.9	10.0	10.1	10.2	10.3	10.4	10.5	10.6	10.7	10.8	10.9	11.0	11.1	11.2	11.3	11.4
		H21	1	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3	0	0	1	1	2	2	1	3	0	0	0	0
	H22	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	2	0	0	2	1	0	1	1	0	0	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H23	0	0	0	2	0	0	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	2	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	H24	1	0	2	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	1	0	2	3	0	0	0	3	0	1	2	2	1	1	1	1	2	1	0
	H25	0	1	0	0	1	0	0	1	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	
	H26	0	0	0	2	0	2	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1
	H27	0	1	0	0	2	0	0	0	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0
	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	7	2	0	0	1	0	1	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	1	1	0	1	0	0	0
	H29	1	3	0	1	2	1	0	1	3	1	1	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	0	2	0	1	2	1	3	2	0	0	0	0	1	3	1	0	0
	H30	4	1	0	1	1	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	2	1	0	2	0	0	1	0	0	0	2	1	3	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0
	H31/R1	0	0	0	2	0	0	1	0	2	1	1	0	0	0	0	2	0	0	0	2	1	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0
	R2	2	1	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	1	1	1	1	2	0	1	0	0	0	1	1	2	0	0
	R3	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	R4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	
	R5	0	3	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	2	1	2	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0

年度	KP	11.5	11.6	11.7	11.8	11.9	12.0	12.1	12.2	12.3	12.4	12.5	12.6	12.8	12.9	13.0	13.1	13.2	13.3	13.4	13.5	13.6	13.7	13.8	13.9	14.0	14.1	14.2	14.3	14.4	14.5	14.6	14.7	14.8	14.9	15.0	15.1	15.2	15.3
		H21	1	1	0	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1	3	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	2	2	3	0	1	1	1	0	1
	H22	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	2	3	2	1	1	0	1	0	1	2	0	0	0	2	3	0	0	0	2	1	1	1	1	2	2	1
	H23	0	1	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	2	1	0
	H24	0	0	0	0	1	1	0	1	0	2	1	2	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	2	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
	H25	0	3	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	4	1	0
	H26	1	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	1	0	1	1	1	0	1	0	2	1	1	0	0	1	0	1	0	1	2	0	4	1	1	2	0	1	1
	H27	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	2	3	3	3	0	2	0	1	0	0
	H28	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0	1	0	2	0	2	0	0	2	1	1	2	0	0	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
	H29	0	1	1	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	2	0	1	0	0	2	1	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0
	H30	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	1	1	2	0	2	1	2	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	3	1
	H31/R1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	1	1	1	0	0	1	1	1	0	0	2	0	0	1	0	1	4	1	3
	R2	0	0	3	2	2	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2	0	1	0	1	1	0
	R3	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
	R4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	R5	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0

年度	KP	15.4	15.5	15.6	15.7	15.8	15.9	16.0	16.1	16.2	16.3	16.4	16.5	16.6	16.7	16.8	16.9	17.0	17.1	17.2	17.3	17.4	17.5	17.7	17.8	17.9	18.0	18.1	18.2	18.3	18.4	18.5	18.6	18.7	18.8	18.9	19.0	19.1
		H21	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	2	0	2	1	0	1	2	2	1	0	0	1	1	1	1	2	1	1	0	0	1	0	0	0	1
	H22	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	2	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	2	1	0	0	1	0	0	2
	H23	0	0	0	1	4	0	0	2	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	3	0	1	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0
	H24	2	0	0	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	1	0
	H25	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	2	1	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
	H26	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	2	0	1	3	1	1	2	0	2	1	0														